

粘土地帯における秋播てん菜の播種期と収穫期に関する試験

立石静男・白石憲郎・中島憲秋・西村 博
(長崎県総合農林センター)TATEISHI, S., SHIRAIISHI, K., NAKASHIMA, K. and NISHIMURA, H.
Experiments on the Seeding and Harvesting Times of
Sugar Beet Sown in Autumn in Heavy Clay Area.

緒 言

暖地における夏播てん菜は播種期が7～8月の高温乾燥期に当たるため、発芽不良並に立枯の発生が多く、てん菜栽培を阻害している。そしてかかる条件下における発芽並びに初期生育の順調性は夏播てん菜の安定増収上必須な条件と考えられる。

一方気温の低下する9月に入ってから播種し収穫期を延ばして春期根の再肥大を計る所謂秋播栽培が暖地てん菜の栽培型の1つとして注目されている。このような見地から、1960年(播種)に重粘細地に於て行つた試験結果の概要を報告して参考にと供したい。

試験方法

供試品種は何れも耐抽苔品種である Cesena NSA と Kw-AA を用い、播種期は9月5日、15日、25日、10月5日、収穫期は3月1日、3月20日、4月10日、4月30日、5月18日、栽植密度は畦巾60cm、株間20cmとし、その他は当場の耕種基準により実施した。

試験結果

(1) 草丈並びに生葉数の推移

第1表 草丈の推移 (cm)

品種	調査月日 播種期	月日						
		12.22	1.26	2.24	3.20	4.10	5.1	5.18
Cesena NSA	9.5	39.5	29.5	21.7	21.4	22.9	32.3	51.1
	9.15	31.3	23.7	22.2	18.3	22.1	31.9	47.3
	9.25	27.5	20.9	15.8	16.9	16.3	34.5	43.9
KW-AA	9.25	24.7	20.8	18.6	17.3	19.5	38.6	70.8
	10.5	23.5	21.3	15.7	16.7	23.4	42.5	59.0

第2表 生葉数の推移 (枚)

品種	調査月日 播種期	月日						
		12.22	1.26	2.24	3.20	4.10	5.1	5.18
Cesena NSA	9.5	19.4	19.0	15.8	29.5	29.8	51.1	59.1
	9.15	15.9	16.0	15.9	22.0	28.6	34.6	46.3
	9.25	9.8	10.0	10.4	19.6	21.6	36.9	36.0
KW-AA	9.25	15.3	14.0	14.0	23.9	33.5	53.3	35.3
	10.5	11.7	12.0	11.0	23.2	36.4	47.9	39.9

草丈は12月下旬以後1月下旬にはむしろ短くなつ

ている。これは12月下旬よりかなり長期に亘つた異常寒波による地上部の部分的な枯葉発生に因るものと思われる。4月に入り気温が上昇するとともに再伸長を始め、4月10日以後特に顕著である。生葉数は草丈の伸長に先んじて3月下旬には著しく増えている。

(2) 根径の推移

第3表 根径の推移 (cm)

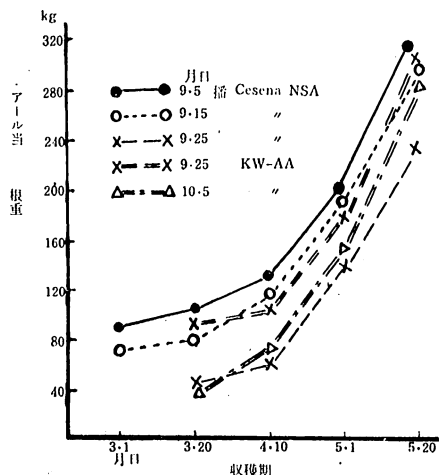
品種	収穫期 播種期	月日				
		3.1	3.20	4.10	5.1	5.18
Cesena NSA	9.5	5.7	6.1	6.2	6.6	8.1
	9.15	4.6	4.8	5.6	6.1	7.2
	9.25		3.5	4.0	6.0	6.6
KW-AA	9.25		4.2	5.3	6.5	7.4
	10.5		3.6	4.4	5.9	7.3

各播種期ともに3月以降根部の再肥大が行われており、播種期のおそい区においてそれが著しいようである。しかし何れの収穫期においても播種期の早いもの程根径は長い。

また9月25日播で両品種の根径を比較すると Kw-AA の方が根の肥大が旺盛のようである。

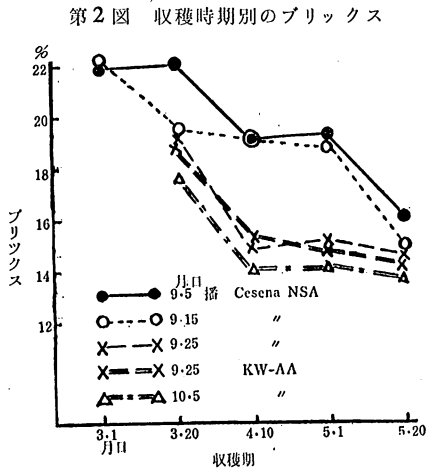
(3) 収穫時期別の根重

第1図 収穫時期別の根重



何れの播種期も収穫期を延ばすと根重は増加し、特に4月10日以後の根重増加が顕著である。しかし播種期のおそい区程根重は軽く、中でも Cesena NSA の9月25日播は甚だしく根重が劣っている。また Kw-AA の10月5日播の根重が Cesena NSA の9月25日播の根重を凌駕しており、秋播春期再生長栽培の場合、根重の再増加という点では Kw-AA の方が優っているように推察される。

(4) 播種期、収穫期別のブリックス



各播種期とも収穫時期を延ばした場合には根重の増

加とは逆にブリックスは低下する傾向がうかがわれる。

9月25日播及び10月5日播は4月10日にはブリックス16%以下に急激に低下する。しかし9月15日以前の播種期においては収穫期を延ばした場合もブリックスの低下が少く、5月1日収穫時においても18%以上を保持し、ブリックスの急低下の時期も後にずれている。

む す び

てん菜の秋播春期再肥大の栽培体系においては夏播てん菜とはその前後作関係も当然変化が必要であろうし、また夏播てん菜の安定増収性の今後の伸び方を併せ考慮する必要もあろう。

また、この栽培型にあつては秋期、冬期並びに春期の温度、降水量等の気象条件により根の再肥大、糖度等の推移は年次的にかなりの相違があるものと推測される。その他土壌条件あるいは施肥法等にも影響されるところが大きかろう。

以上の如く各種の要因を考え併せると軽々に断定は下し難いが、本試験結果から根重と糖度の両者から考えて、てん菜の秋播栽培においては9月中旬頃までに播種期の1つのPointがあり、4月下旬頃までの収穫が実用的ではないかと推察される。